

取組のポイント

- ◆飛騨市では、製紙用チップの材料として安価に販売されている小径（平均胸高直径26cm程度）の広葉樹資源に新たな価値を見出し、地域の新たな経済循環の創出を目指す「広葉樹のまちづくり」を推進
- ◆低温人工乾燥のみで広葉樹を製品化する技術を開発・実装することで、通常は伐採から約1年を要する板材製造期間を約3か月に短縮
- ◆「小径広葉樹短期乾燥化サイクル」を確立し、短納期かつ明確なトレーサビリティが確立された商品として新たな需要開拓を目指す取組

地区の概要

- ◆ 位置
岐阜県飛騨市(旧 小鷹利村・細江村・河合村・坂上村・坂下村)



- ◆ 活用した地域資源
飛騨地域産広葉樹
- ◆ 事業実施主体
飛騨市広葉樹活用推進
コンソーシアム
- ◆ 主な取組団体等
(株)飛騨の森でクマは踊る（広葉樹活用事業者） 他
- ◆ 事業実施期間
R3～R5

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

- ◆多様な広葉樹を同時にかつ短期間で乾燥させる試験を実施
- ◆短期乾燥材が通常材と遜色なく加工できるか、加工試験を実施



【短期乾燥装置】



【建築材（森の端オフィス）】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

- ◆短期乾燥施設の利用促進の営業の実施
- ◆視察で訪れる関係者に対し、飛騨の森から伐採し、製材され・短期乾燥、加工に至るまでの流れを紹介する広葉樹視察ツアーの実施



【本運用に向けた広告】



【視察ツアー説明】

取組の成果

- ◆短期乾燥材を活用した試作品の開発 25件（家具、建築材、小物類）
- ◆短期乾燥を含む広葉樹活用推進に係る雇用増加数 2人（飛騨地域家具メーカー他）
- ◆飛騨地域産小径広葉樹材の販売取扱量 58m³（取組前）→ 535m³（R5）